

# 小学生の長期休みの過ごし方 実態調査 2025

---

特定非営利活動法人 放課後NPOアフタースクール  
2025.6.26

協力：株式会社 千趣会「子育て応援基金」

1. 背景・目的 -P3
2. サマリ -P4
3. 調査概要 -P5
4. 調査結果1 就労家庭の小学生の長期休みの過ごし方 (n=1200) -P7
  - 1-1. 長期休みの過ごし方 -P8
  - 1-2. 小学生の長期休みの体験の有無 -P9
  - 1-3. 小学生の長期休みの過ごし方と普段の放課後の過ごし方の比較 -P10
  - 1-4. 過ごし方別の詳細 (低高学年別 / 世帯年収別 / 居住地域別の内訳) -P11
5. 調査結果2 長期休みの過ごし方に対する課題・ニーズ (n=1200) -P19
  - 2-1. 長期休みの過ごし方に対する課題感とニーズ (子どもの声) -P20
  - 2-2. 子どもの長期休みの過ごし方に対する課題感とニーズ (保護者の声) -P21
  - 2-3. 長期休みの過ごし方に対する課題感とニーズ (テーマ別：学童保育・友達と遊ぶ・旅行) -P22
6. 示唆 -P25

## 子どもの声を聴き、実態を把握することで、より本質的な解決へ

放課後NPOアフタースクールでは、安全で豊かな放課後を日本全国で実現するため、自治体や企業と連携して全国の放課後事業者の支援を行う他、放課後の実態調査や課題の可視化、政策提言などの活動も行っています。

昨今「長期休みの子どもの預け先がない」など、長期休みの居場所について課題の声が多く聞かれるようになりました。こういった現状を受け、こども家庭庁も「[小学校の長期休業中におけるこどもの居場所に関する調査研究](#)」などの調査や対策を進めています。

預かりニーズが高くなり、それが不足している課題に対策を進めることは重要ですが、それだけでなく、子どもたちが長期休みにど

う過ごしているかの実態を把握し、どう過ごしたいかという声を聴いて、子どものニーズと実態のギャップを知ることも重要です。

放課後NPOアフタースクールでは2025年3月に、小学生の子どもがいる就労家庭1,200人を対象にして「[小学生の放課後の過ごし方調査2025](#)」を実施し、子どもたちの放課後の過ごし方の実態や子ども・保護者の課題感・ニーズについて調査を行いました。

そこでは、特に低所得層の子どもの課題が浮き彫りになり、さらに所得に限らず子どもたちは放課後に「もっと遊びたい」「友達と遊びたい」「自由に過ごしたい」というニーズがある一方で、それが叶っていない状況にあることが分かりました。

今回の調査では、子どもの長期休みの過ごし方についても年収別・地域別の切り口で実態の分析を実施。長期休みは普段の放課後以上に子どもの居場所と体験について、子どもも保護者も不満や困りごとを抱えている実態が見えてきました。

今回の調査をきっかけに、子どもや保護者の課題感やニーズが幅広く把握され、放課後や長期休みの課題の特定が進み、より本質的な解決策につながっていくことを期待しています。



# 今回の調査から見えた重要なポイント

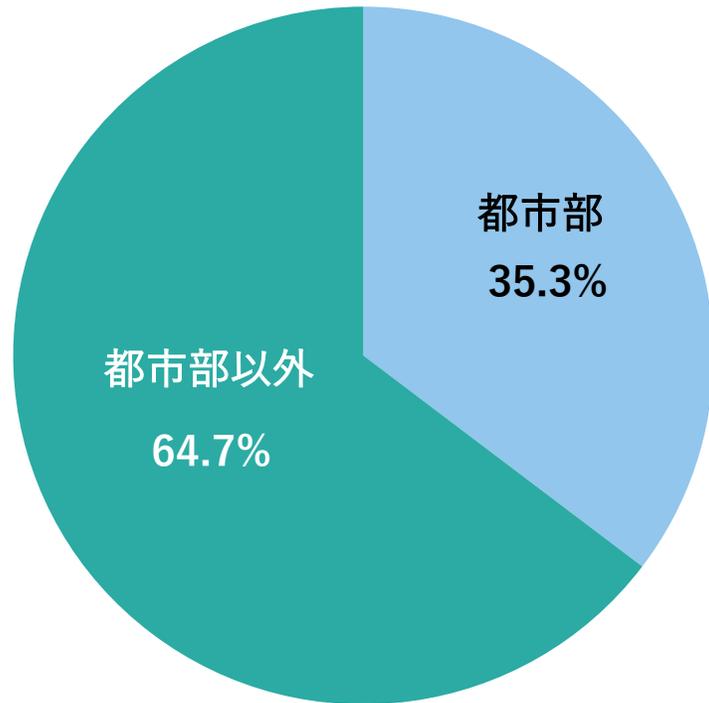
※本調査結果においては、放課後児童クラブを「学童保育」と表記します。  
※本調査では、共働きまたはひとり親で自身が就労している家庭を「就労家庭」と表記します。

- ① 長期休みに自宅で留守番をして過ごしている子どもの割合は全体で50.6%、  
高学年では61.9%を占める。  
子どもからは「学童に行きたくない」「学童はつまらない」など、学童保育への不満が多数。  
保護者からは「安心安全に過ごせる場所や預かりサービスがほしい」という声。
- ② 子どもからは「旅行に行きたい」「いろいろな体験をしたい」「もっと遊びたい」という声が多  
数あがったのに対して、  
「サマースクール・キャンプ・旅行等」を「なし」と答えた割合は、全体で77.8%。  
「友達と遊ぶ」を「なし」と答えた割合は、全体で40.8%。
- ③ 年収300万円未満では、「サマースクール・キャンプ・旅行等」なしが92.3%、  
「友達と遊ぶ」なしが56.9%にのぼる。  
さらに、「祖父母・親戚の家で過ごす」機会がない割合も69.2%と全体平均に比べ著しく多い。

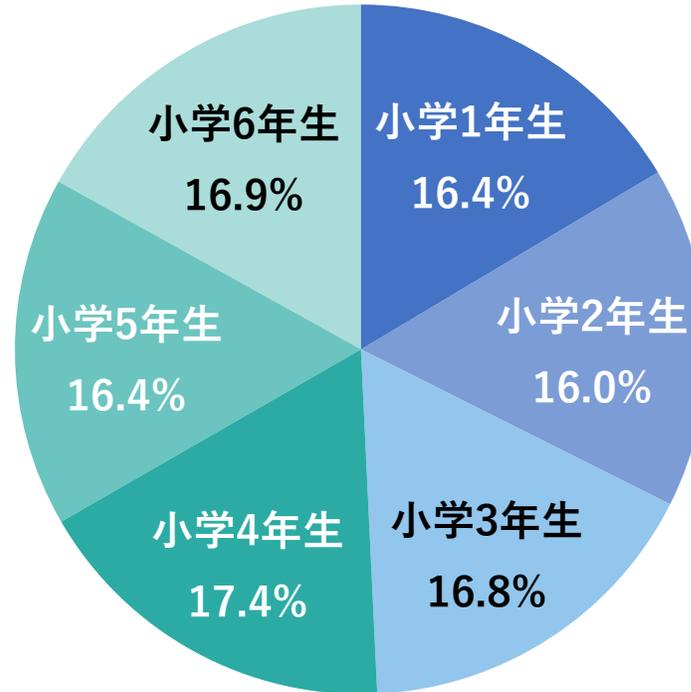
対象者	小学生の子どもをもつ就労家庭（共働きまたはひとり親で自身が就労している）の男女（一部、子ども向けの設問は、保護者が子どもに聞いて回答する形式）
対象地域	全国
調査期間	2025年1月17日～18日
調査方法	インターネットアンケート調査会社のモニターを利用したWEB調査
有効回答数	1,200人
調査項目	<ul style="list-style-type: none"><li>・年齢、性別、就労形態、居住地（都道府県）、子どもの学年、世帯年収</li><li>・長期休みの過ごし方とその頻度</li><li>・長期休みの過ごし方に対する子どもの課題感・ニーズ</li><li>・子どもの放課後・長期休みの過ごし方に対する保護者の課題感・ニーズ</li></ul>

回答者の居住地、子どもの学年、世帯年収の割合は以下の通り。

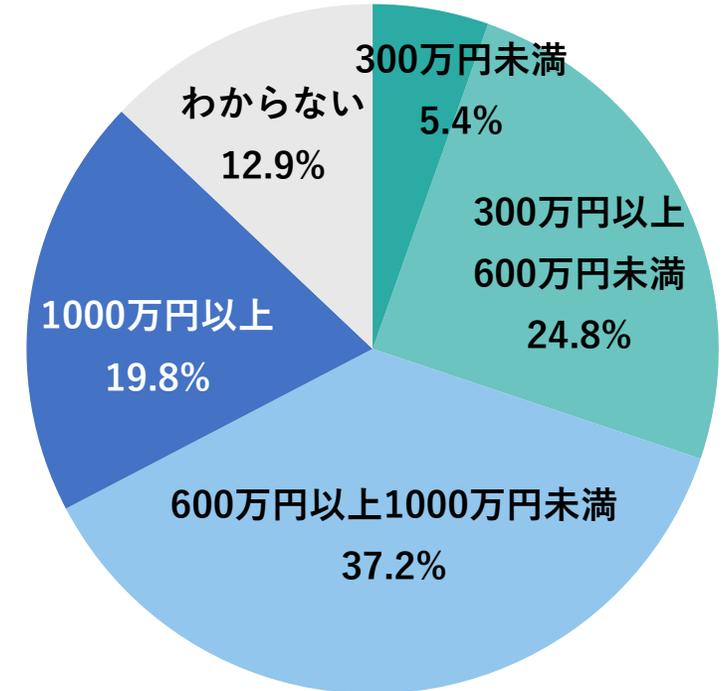
居住地 (n=1200)



子どもの学年 (n=1200)



世帯年収 (n=1200)



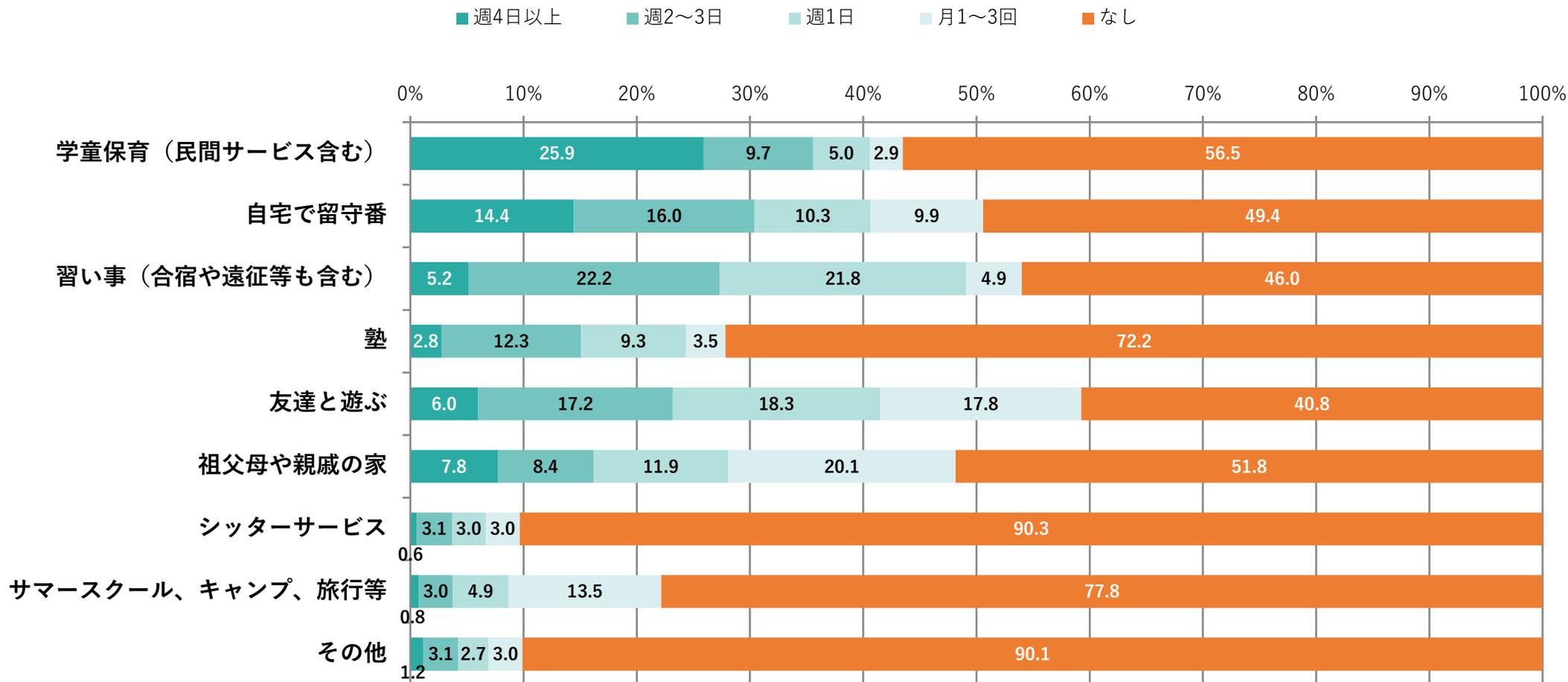
「わからない」を除く回答数：1045

調査結果1-1  
就労家庭の小学生 (n=1200)  
の長期休みの過ごし方

## 調査結果1-1：小学生の長期休み（夏休みや冬休みなど）の過ごし方

週4回以上で見ると、「学童保育(25.9%)」が最多、次いで「自宅で留守番(14.4%)」、週2回以上でも同傾向。週1回以上で見ると、「習い事(49.2%)」が最多、次いで「友達と遊ぶ(41.5%)」。「サマースクール、キャンプ、旅行等」の特別な体験があるのは、全体の22.2%。

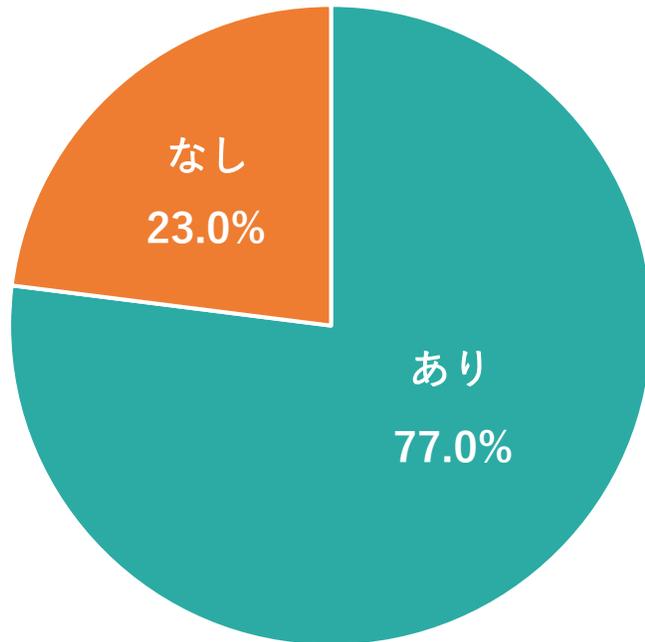
小学生のお子さまの長期休みの過ごし方とその頻度についてあてはまるものをすべて選択してください。



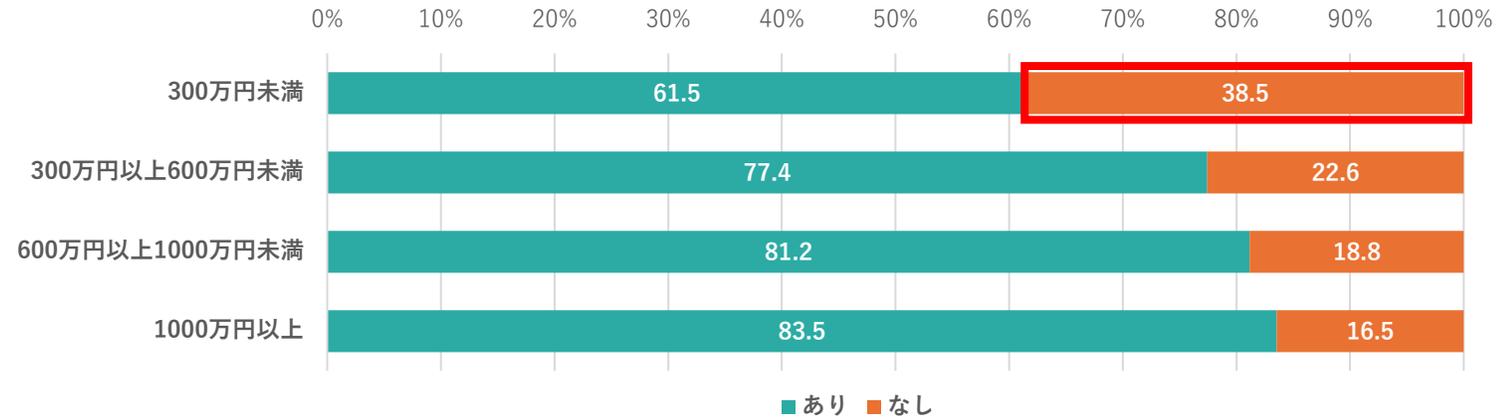
※小数点第二位以下を四捨五入しているため、合計値が100%にならない場合もあります。

長期休みに「習い事/友達と遊ぶ/祖父母や親戚の家に行く/サマースクール・キャンプ・旅行等」いずれの体験もない子どもは23.0%。年収300万円未満では38.5%と他と比べると多い。

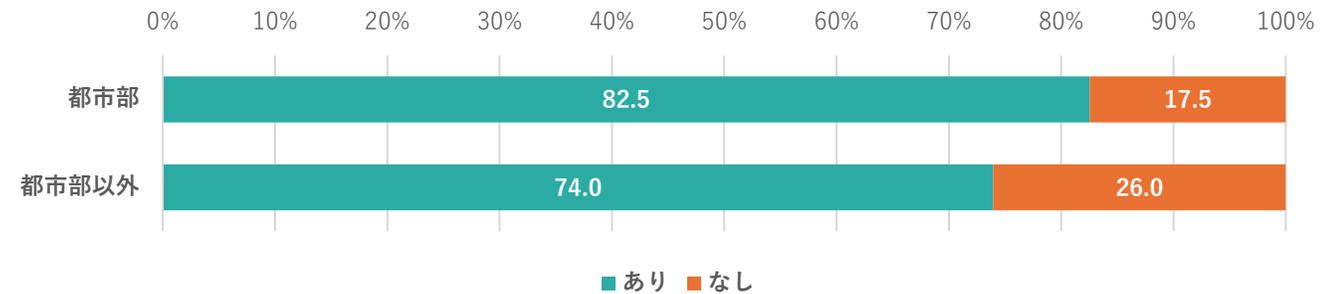
長期休みの体験の有無 (n=1200)



年収別 (n=1045)



地域別



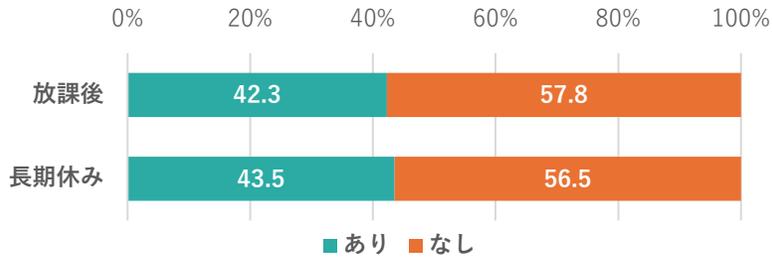
※ここでの「体験」とは「習い事/友達と遊ぶ/祖父母や親戚の家に行く/サマースクール・キャンプ・旅行等に行く」を指します。

※小数点第二位以下を四捨五入しているため、合計値が100%にならない場合もあります。

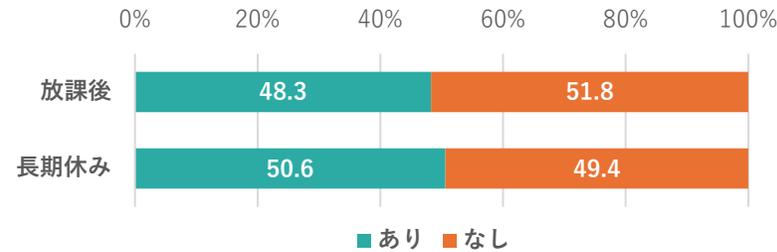
# 調査結果1-3：小学生の長期休みの過ごし方と普段の放課後の過ごし方の比較

普段の放課後と比べて長期休みには「祖父母や親戚の家(+10.7pt)」の頻度が増える傾向。一方、「習い事(-7.6pt)」「友達と遊ぶ(-4.9pt)」の頻度は減る傾向。

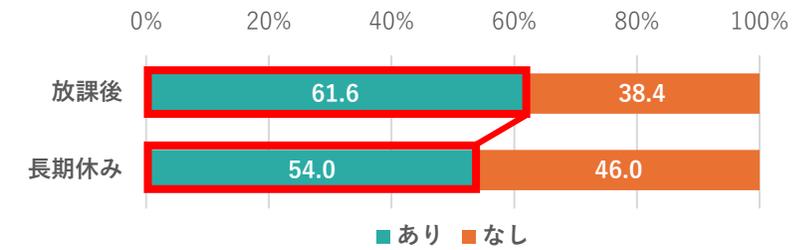
学童保育



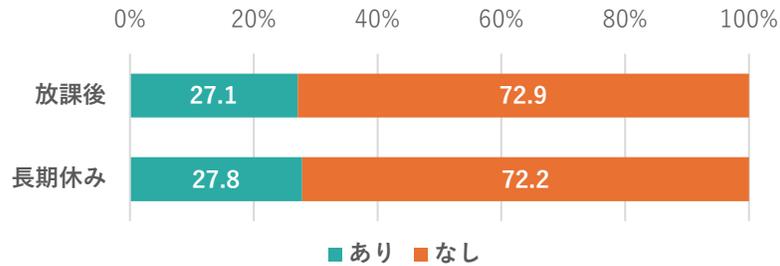
自宅で留守番



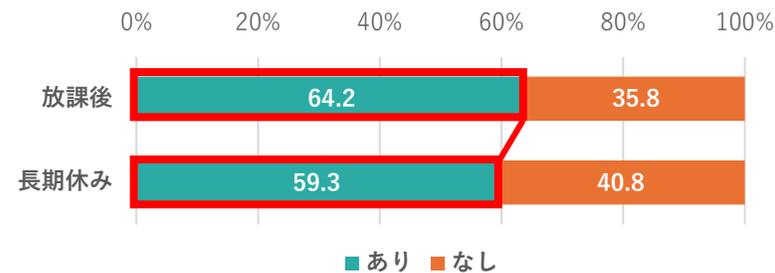
習い事



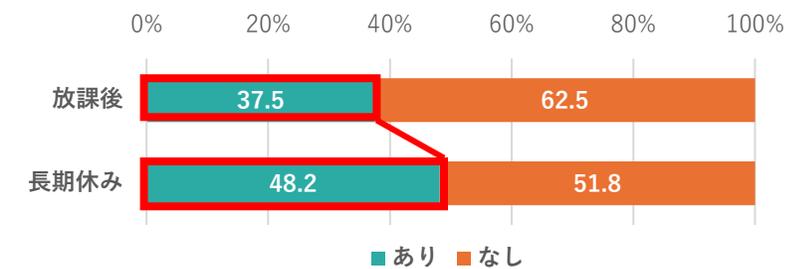
塾



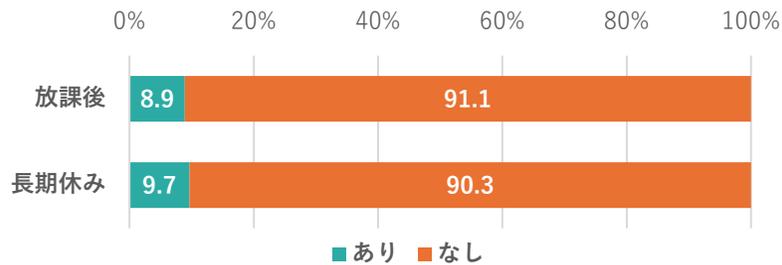
友達と遊ぶ



祖父母や親戚の家



シッターサービス



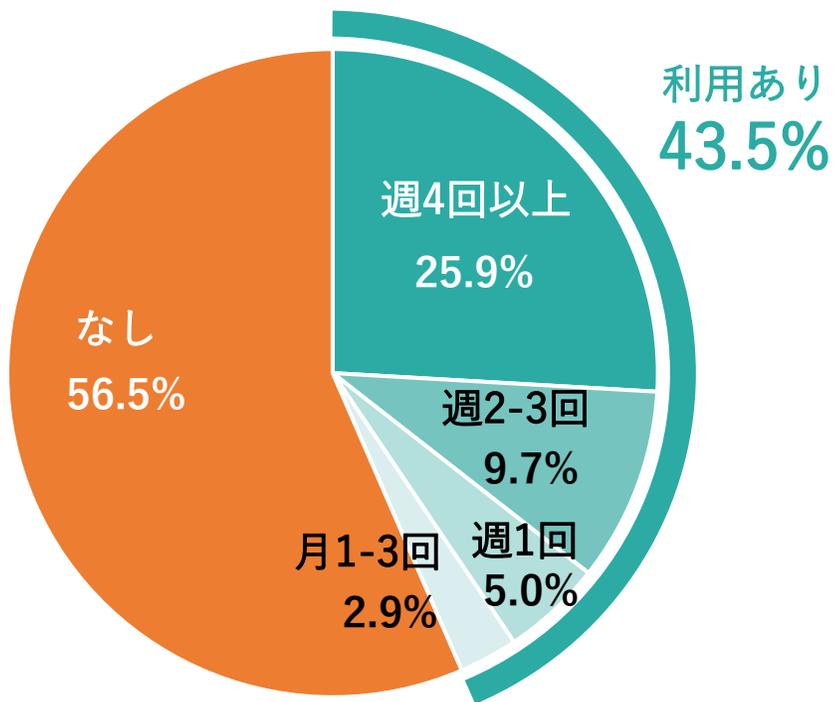
※小数点第二位以下を四捨五入しているため、合計値が100%にならない場合もあります。

# 調査結果1-4：①学童保育の利用頻度 | 就労家庭の小学生(n=1200)

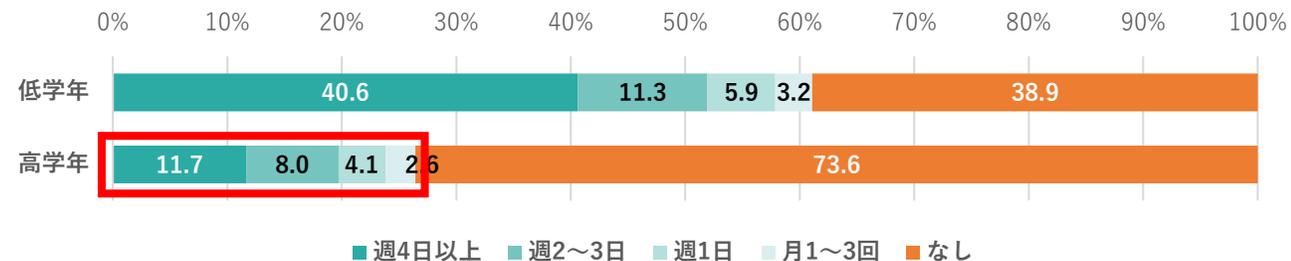
学童保育の利用率は全体で43.5%。高学年は利用率が低い。  
また、年収1000万円以上で利用率が高く、都市部の方が都市部以外よりも利用率が高い。

学童保育(n=1200)

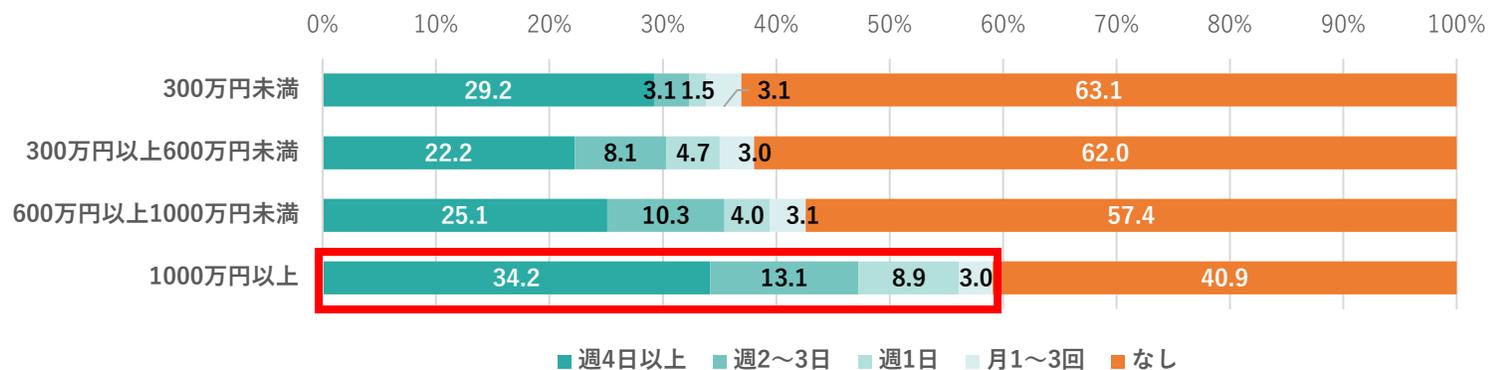
■ 週4日以上 ■ 週2～3日 ■ 週1日 ■ 月1～3回 ■ なし



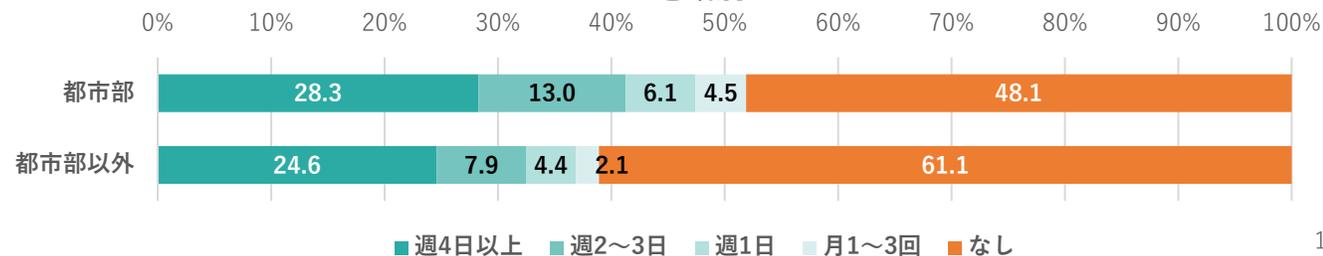
学年別



年収別 (n=1045)



地域別

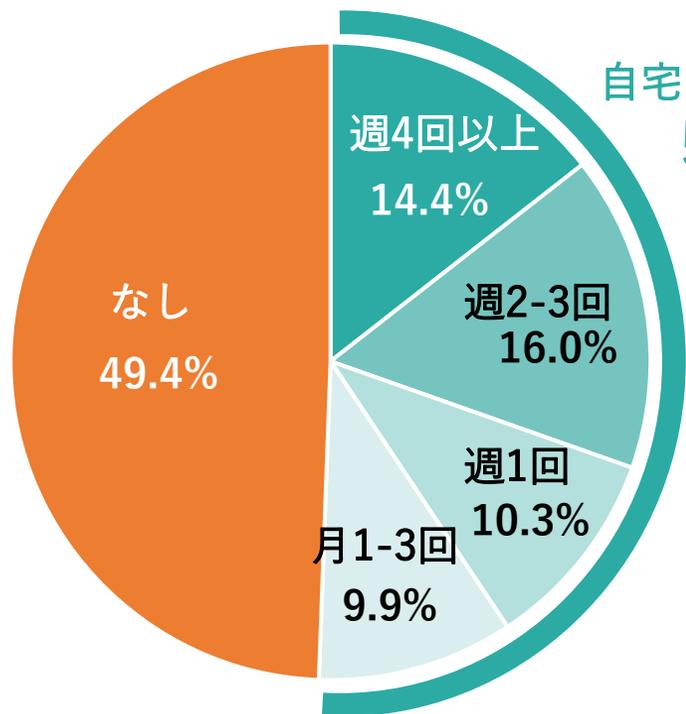


※小数点第二位以下を四捨五入しているため、合計値が100%にならない場合もあります。

自宅で留守番をしている小学生は、全体で50.6%。高学年では61.9%にのぼり、頻度も増え、週4回以上が2割、週1回以上は約半数。都市部以外よりも都市部の方が自宅で過ごす頻度が多い。

自宅で留守番(n=1200)

■ 週4日以上 ■ 週2~3日 ■ 週1日 ■ 月1~3回 ■ なし



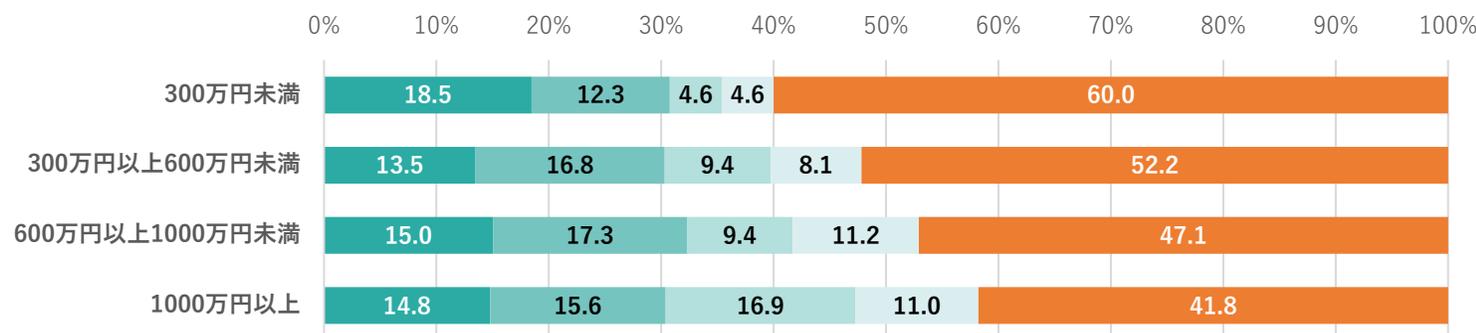
自宅で留守番あり  
50.6%

学年別



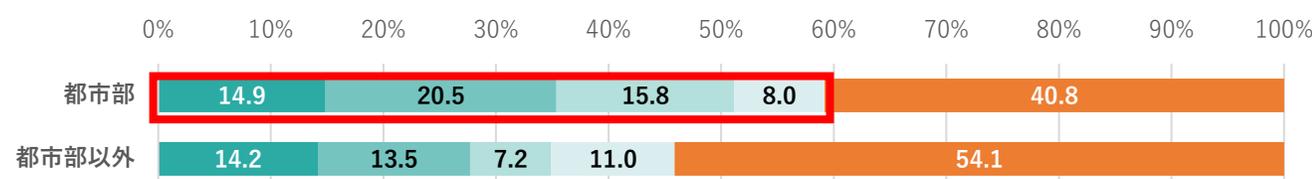
■ 週4日以上 ■ 週2~3日 ■ 週1日 ■ 月1~3回 ■ なし

年収別 (n=1045)



■ 週4日以上 ■ 週2~3日 ■ 週1日 ■ 月1~3回 ■ なし

地域別



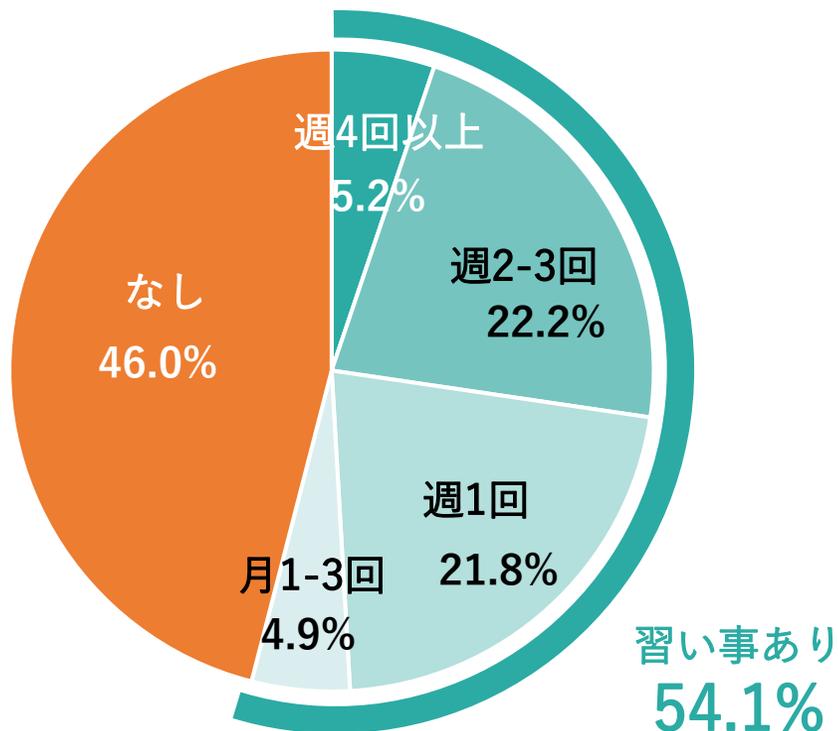
■ 週4日以上 ■ 週2~3日 ■ 週1日 ■ 月1~3回 ■ なし

※小数点第二位以下を四捨五入しているため、合計値が100%にならない場合もあります。

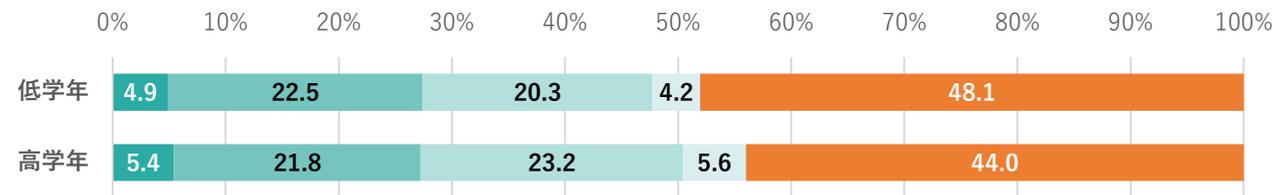
習い事をしている割合は全体で54.1%。年収300万円未満で「なし(72.3%)」が著しく多い。都市部に比べ、都市部以外で頻度が少ない傾向がうかがえる。

習い事(n=1200)

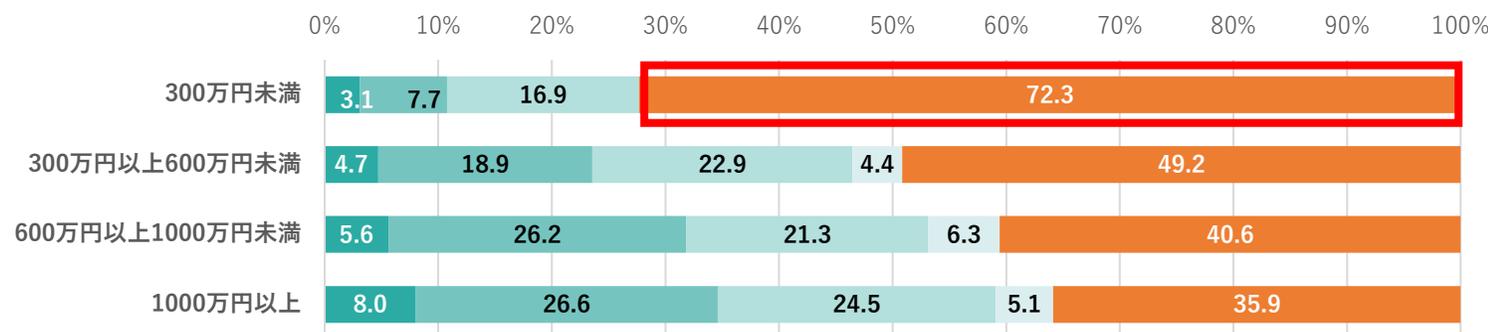
■ 週4日以上 ■ 週2~3日 ■ 週1日 ■ 月1~3回 ■ なし



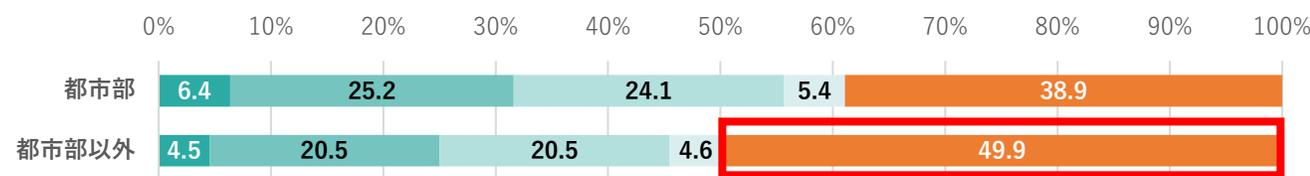
学年別



年収別 (n=1045)

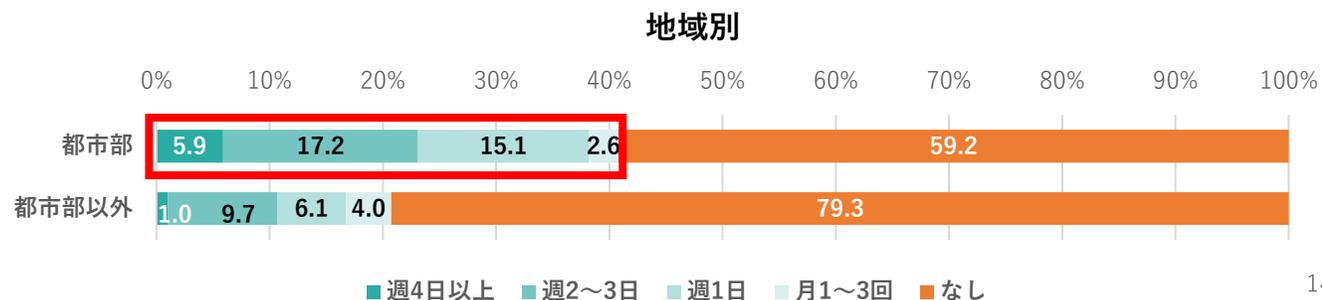
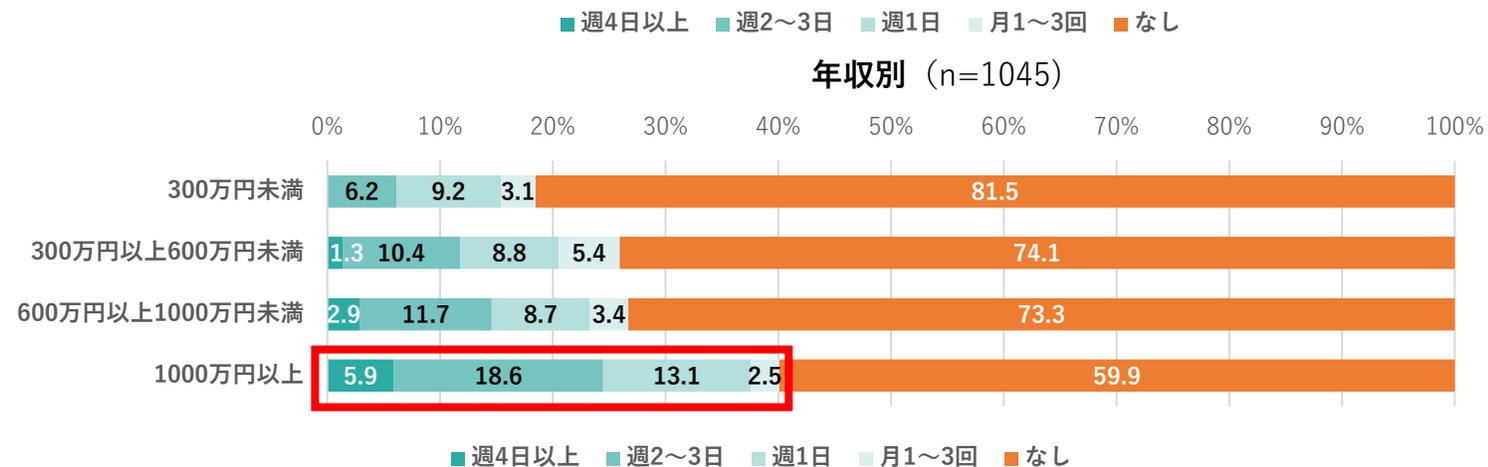
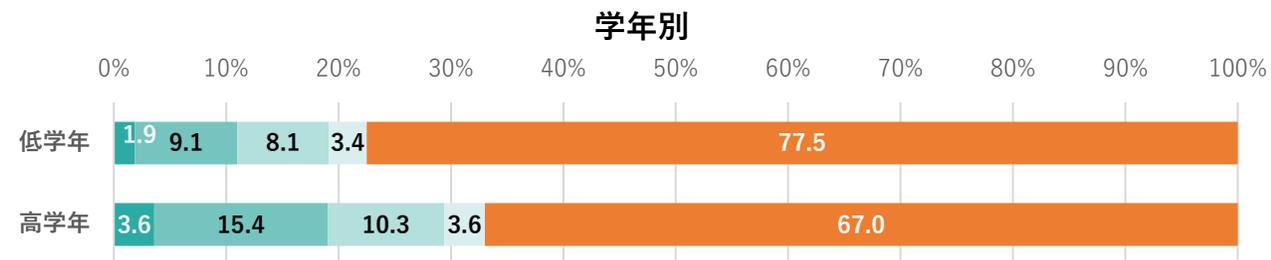
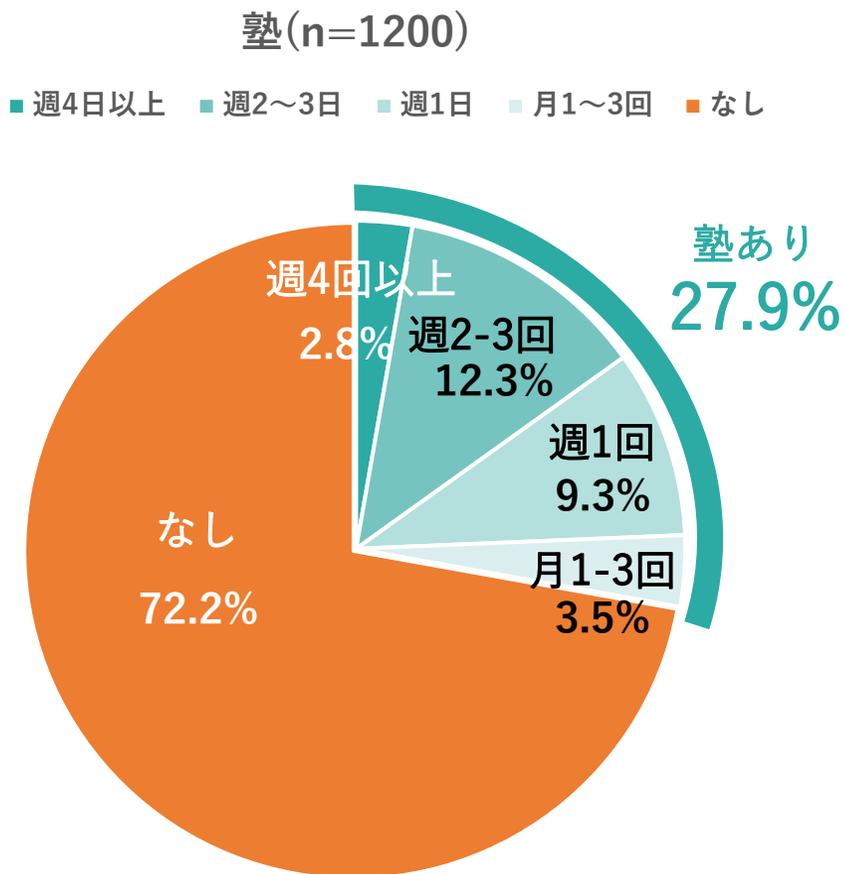


地域別



※小数点第二位以下を四捨五入しているため、合計値が100%にならない場合もあります。

塾に通っている割合は全体で27.9%。年収1000万円以上、都市部で多い傾向。



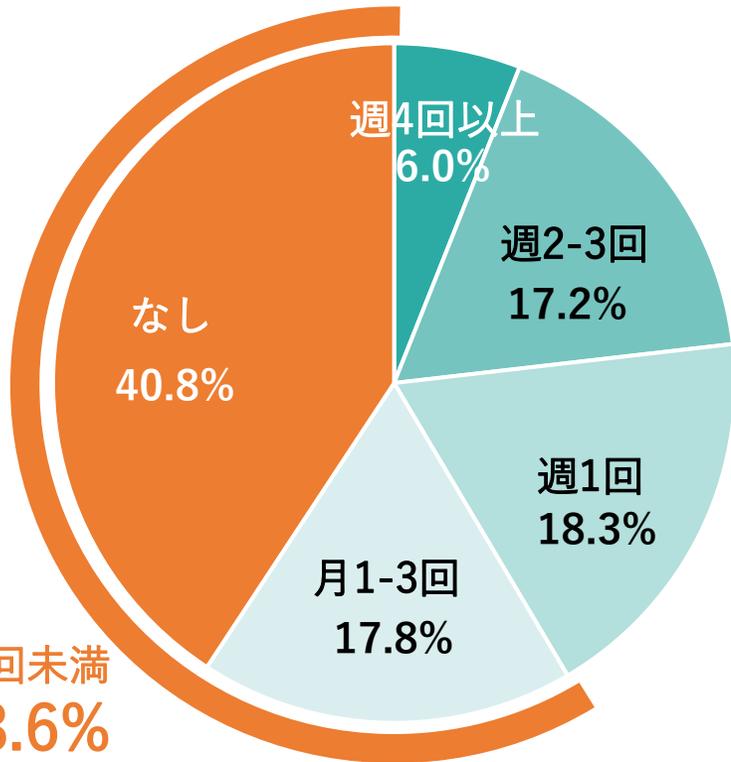
※小数点第二位以下を四捨五入しているため、合計値が100%にならない場合もあります。

# 調査結果1-4：⑤友達と遊ぶ頻度 | 就労家庭の小学生(n=1200)

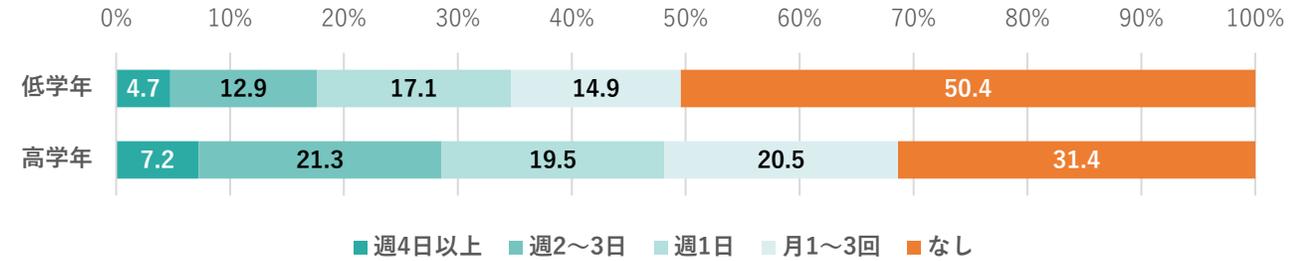
友達と遊ぶ頻度は全体で「週1回未満」が58.6%。年収別にみると300万円未満で「なし(56.9%)」が著しく多い。地域別では都市部に比べ、都市部以外で頻度が少ない傾向がうかがえる。

友達と遊ぶ(n=1200)

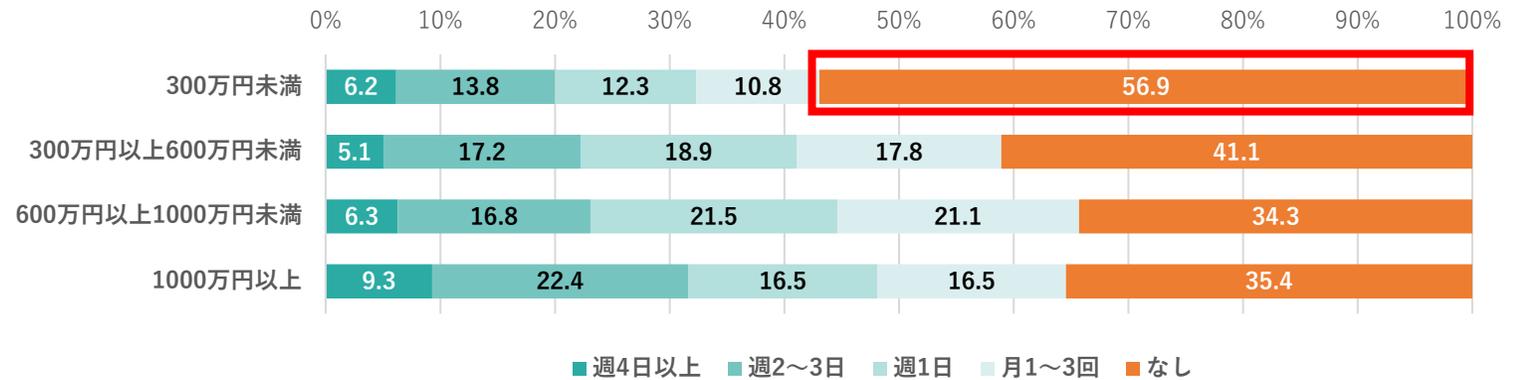
■ 週4日以上 ■ 週2~3日 ■ 週1日 ■ 月1~3回 ■ なし



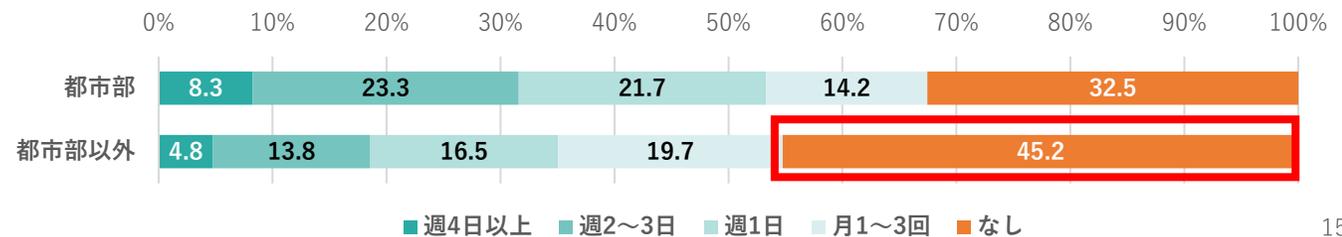
学年別



年収別 (n=1045)



地域別

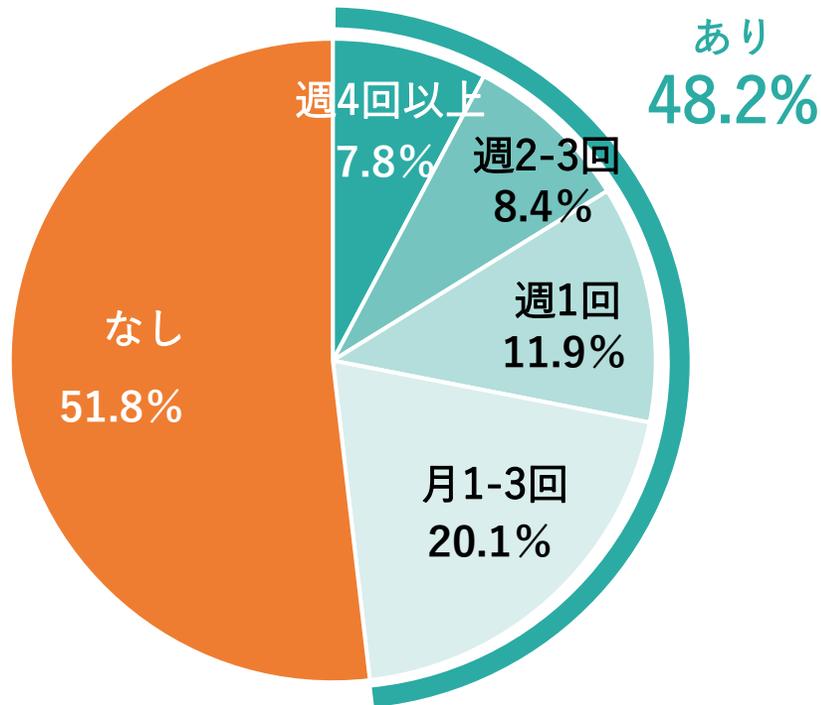


※小数点第二位以下を四捨五入しているため、合計値が100%にならない場合があります。

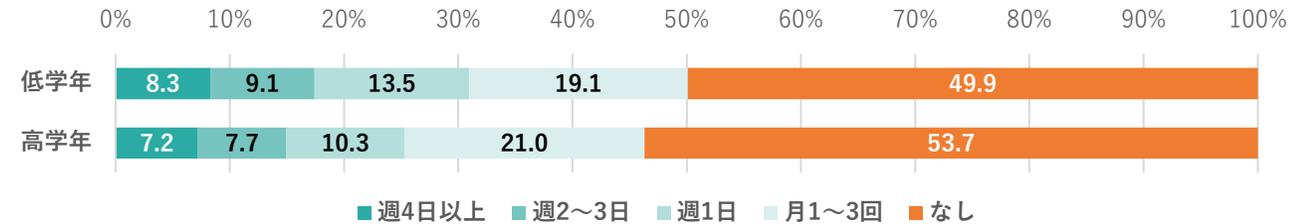
祖父母や親戚の家で過ごす割合は全体で48.2%。年収別にみると、300万円未満で「なし(69.2%)」が著しく多い。

祖父母や親戚の家

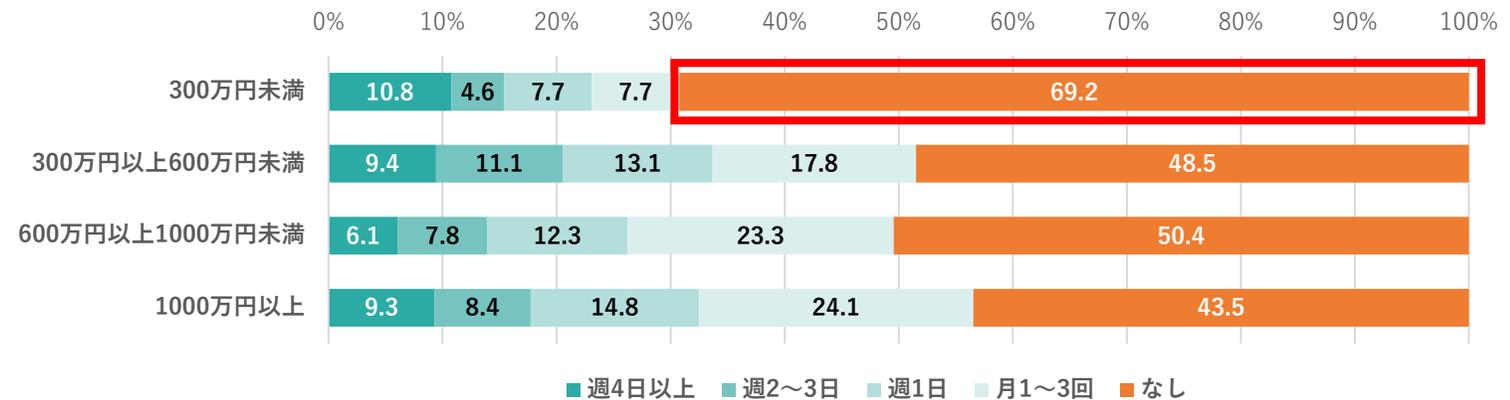
■ 週4日以上 ■ 週2~3日 ■ 週1日 ■ 月1~3回 ■ なし



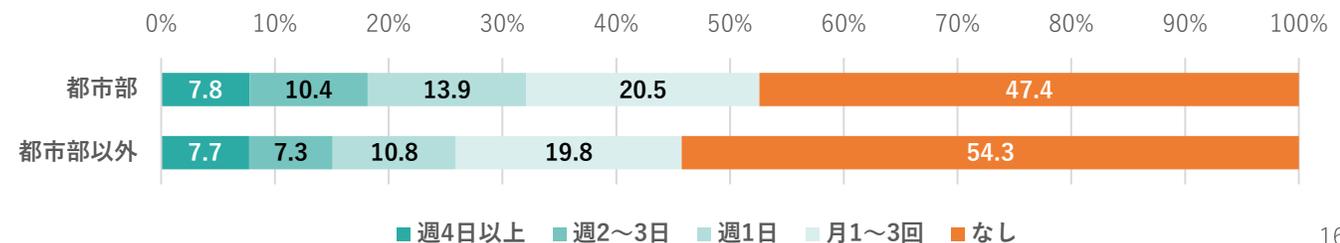
学年別



年収別 (n=1045)



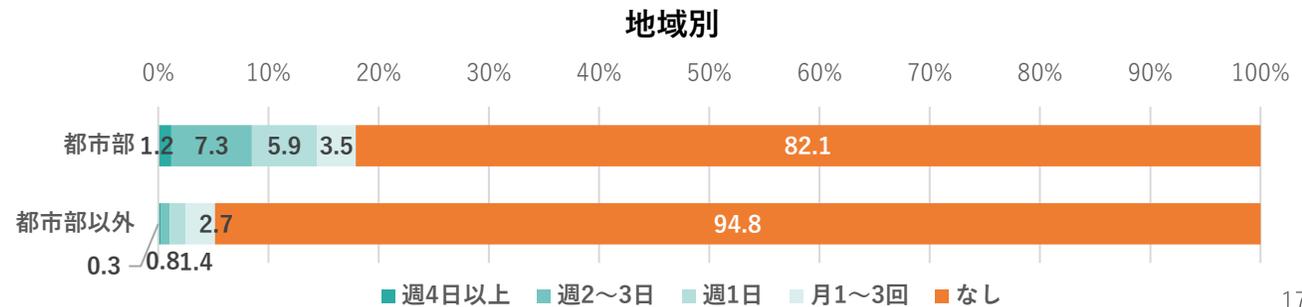
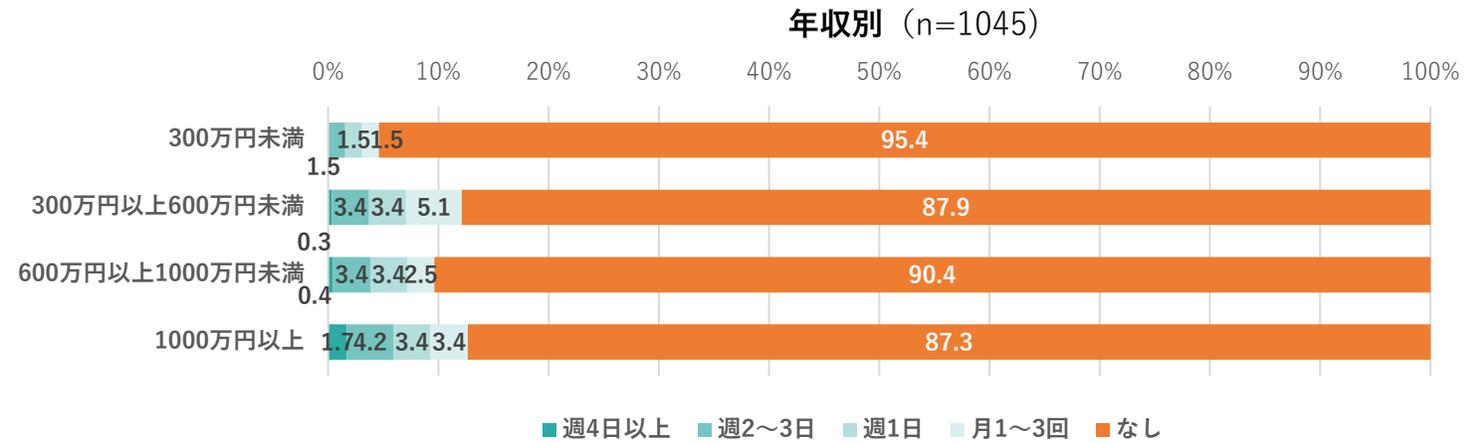
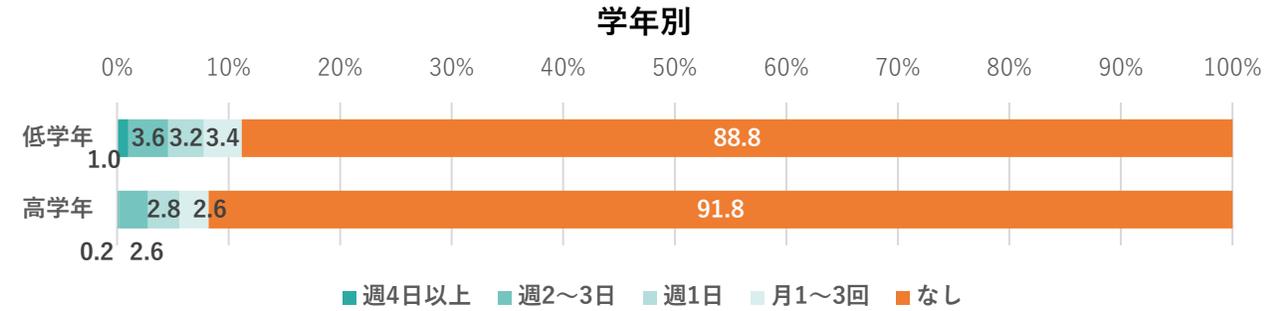
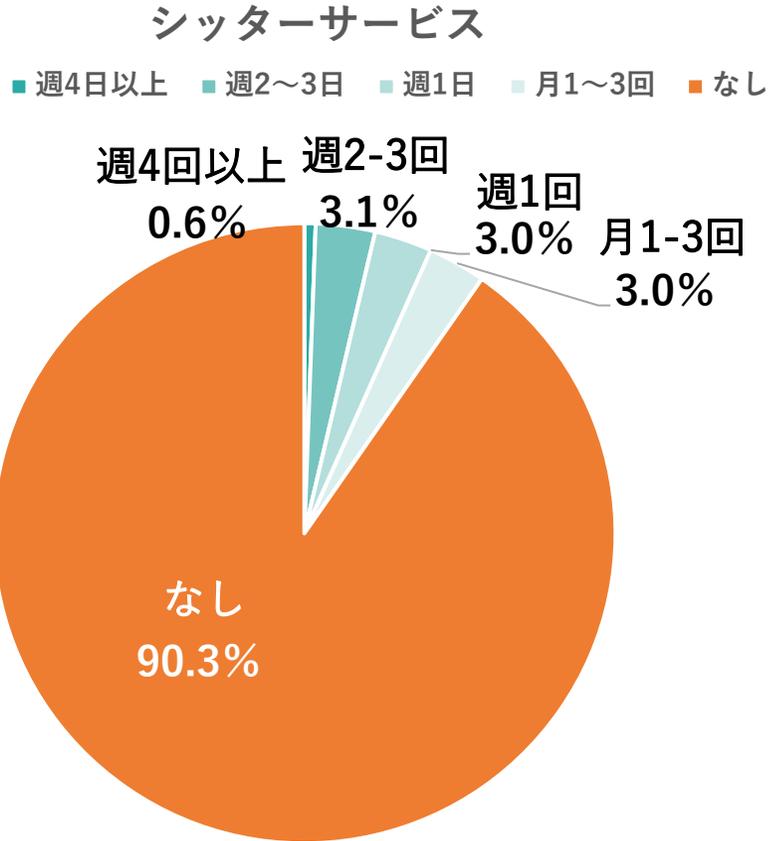
地域別



※小数点第二位以下を四捨五入しているため、合計値が100%にならない場合もあります。

# 調査結果1-4：⑦シッターサービスを利用する頻度 | 就労家庭の小学生(n=1200)

全体でシッターサービスの利用ありは9.7%。年収別にみると300万円未満で「なし(95.4%)」が多い。地域別にみると、都市部で多く17.9%が利用あり。

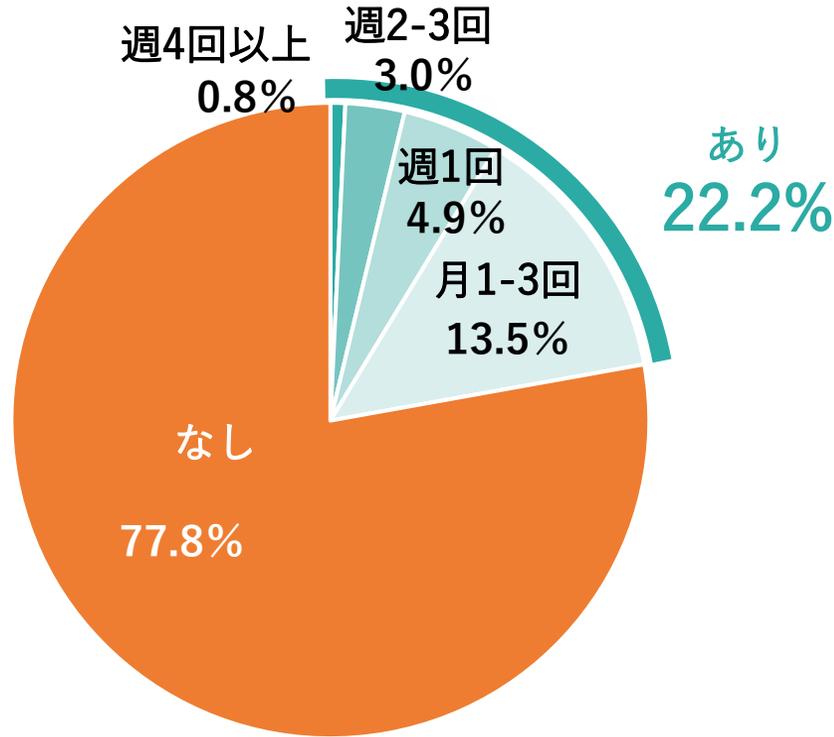


※小数点第二位以下を四捨五入しているため、合計値が100%にならない場合もあります。

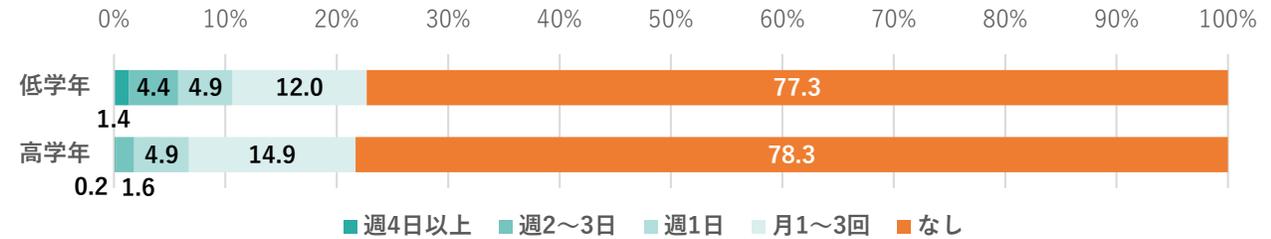
全体でサマースクール、キャンプ、旅行等「なし」が77.8%。  
 年収別にみると300万円未満で「なし(92.3%)」が著しく多く、年収が上がるにつれて「あり」が増える傾向。  
 地域別にみると都市部よりも都市部以外で「なし」が多い傾向にある。

サマースクール、キャンプ、旅行等

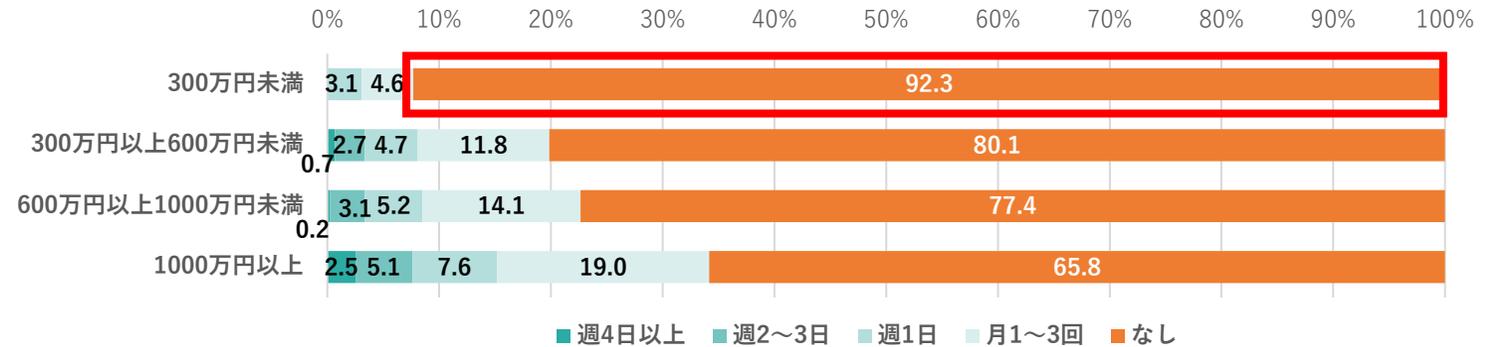
■ 週4日以上 ■ 週2~3日 ■ 週1日 ■ 月1~3回 ■ なし



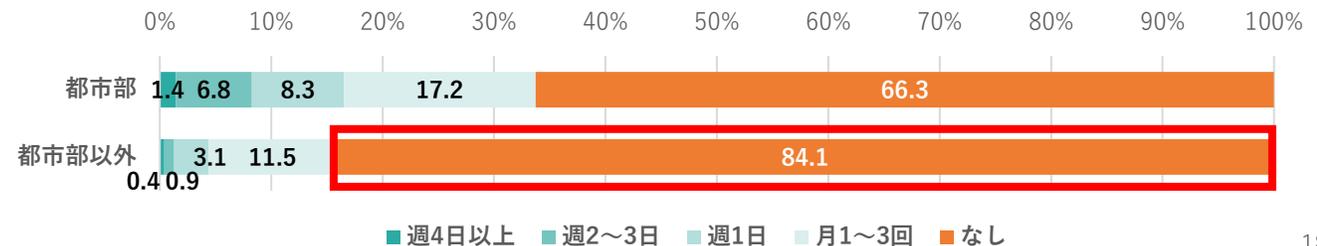
学年別



年収別 (n=1045)



地域別



※小数点第二位以下を四捨五入しているため、合計値が100%にならない場合もあります。

## 調査結果2

就労家庭の小学生・保護者 (n=1200)

長期休みの過ごし方に対する課題・ニーズ

子どもたちのニーズとして特に多かったのは「旅行・お出かけをしたい」「いろいろなアクティビティ・体験をしたい」「もっと遊びたい」「友達と遊びたい」。  
他にも「家族とお出かけしたい/家族と過ごしたい」「家でゆっくりしたい」「自由に過ごしたい」という声も。

### 旅行・お出かけをしたい

もっと旅行やお出かけをしたい。(3年、新潟県)

もっと遊びに行きたい。(4年、高知県)

ずっと家だから遊びに出かけたい。(4年、愛知県)

親が仕事で忙しい時期なので出かけられないのが悲しい。(4年、宮崎県)

自宅で過ごす時間を減らしたい。(5年、埼玉県)

暇。つまらない。普段行けない場所にもっと行きたい。(5年、滋賀県)

### いろいろなアクティビティ・体験をしたい

普段できない活動がしたい。(2年、神奈川県)

もっと体験ができたりしたらいいな。(1年、京都府)

いろんなところに行きたい。(1年、福岡県)

自然の中でアクティビティを体験したい。(2年、岡山県)

旅行に行っているような体験をしたい。(4年、大分県)

### もっと遊びたい

友達と遊ぶ時間が増えるといいと思う。(5年、千葉県)

お友達とたくさん遊びたい。(2年、山形県)

友達と自由に遊べたらいいと思う。(3年、山口県)

もっと遊びに行きたい。家にいても何もすることがなくてつまらないから。(1年、岐阜県)

外で遊べるような場所があればいい。(4年、鹿児島県)

長い休みになると宿題がたくさん出るので少なくしてほしい。もっと遊びたい。(5年、神奈川県)

保護者からは、「子どもが安心・安全に過ごせる場所・遊べる場所がほしい」「いろいろな体験をさせたい」「学校を開放してほしい」といった声が多い。

### 安心・安全に過ごせる場所・サービスがほしい

共働きなので安心して預けられる場所の選択肢が増えて欲しい。(3年保護者、広島県)

安心して遊べる学べる場所で、一人で行かせられる場所があれば良いのに…。(6年保護者、京都府)

預かりサービスを発達させてほしい。(3年保護者、兵庫県)

終日めんどうを見てくれる存在が身近にあってほしいと感じる。(2年保護者、埼玉県)

一緒に面倒をみってくれる大人の手が足りない。(3年保護者、長野県)

公民館など学童保育以外にも長期休みに預けられるところがあれば良いと思う(3年保護者、広島県)

### いろいろな体験をさせたい

夏休みの無料イベントは平日に行われることが多く、フルタイムで働いていると連れて行くことができない。夏休みでも土日にイベントをたくさん開催してほしい。(5年保護者、滋賀県)

体験の機会が少ない。(1年保護者、千葉県)

長期休みしかできない経験をたくさんさせたい。(3年保護者、北海道)

色々な人とかかわってほしい。(1年保護者、岐阜県)

学童で変わり映えしないので、もう少し思い出になるようなことをしてあげたい。(3年保護者、静岡県)

色々な経験をさせてあげたい。(3年保護者、富山県)

### 学校を開放してほしい

午前中だけでも学校があると助かる。(5年保護者、岡山県)

学校に空調がきいている誰でも入れるスペースがあると良い。(2年保護者、神奈川県)

学校で遊べる環境があるといい。(5年保護者、岐阜県)

自由に学校開放されていればいい。(1年保護者、茨城県)

サマーキャンプや学童保育的なものを民間企業に委託し、学校を通して実施してほしい。(1年保護者、埼玉県)

### 遊べる場所がほしい

夏は暑すぎて外で遊べないので、屋内で各々が好きなことができる広めの行政施設があるといい。(4年保護者、千葉県)

エリアの縛りなく、こどもが自由に遊べる場所があるとよい。(2年保護者、東京都)

室内で遊べる場所がほしい。(6年保護者、東京都)

雪遊びができる大きい場所があったらいいのになと言っていた。雪国は家の中にもこもってしまうため、なかなか体を使って遊べないので、体を持て余してしまう。(6年保護者、青森県)

子どもからは「学童のアクティビティが楽しい」という声があった一方、「学童に行きたくない」「学童以外のことをしたい」という声が多数あがった。保護者からは「長期休みだけでも預かってほしい」「学童でお弁当を出してほしい」というニーズが多数あがった。

### 子ども

#### 学童保育に行きたくない・つまらない

あんまり学童には行きたくない。(1年、東京都)

学童やめたい。(2年、大阪府)

学童に行かないで家で過ごしたり、旅行に行きたい。(1年、宮城県)

学童ばかりだとつまらない。(1年、兵庫県)

学童以外の行き場がほしい。(1年、長崎県)

#### 学童保育のアクティビティが楽しい

学童のアクティビティが楽しいから毎日やってほしい。  
(1年、神奈川県)

### 保護者

#### 長期休みだけでも預かってほしい

長期休みだけ利用できる学童に通わせたい。(1年保護者、兵庫県)

長期休みのみの学童があるといい。(1年保護者、静岡県)

今はもう学年があがったけど、以前は長期休みだけ仕事のときは学童に入れてほしいと思ってました。近隣の学童は普段から利用している子しか預かってくれないので、結局仕事を調整して子どもを見ていました。  
(6年保護者、兵庫県)

#### お弁当が大変

長期休みは毎日お弁当を作る必要があり、負担がある。弁当注文など学童でできればありがたい。(2年保護者、福岡県)

長期休みの学童には毎日弁当を持たせる必要があるため、弁当作りが大変だと感じるときもたまにある。(1年保護者、東京都)

長期休みに関してはお弁当が必要なので週に2回とかでいいので給食や学童でお弁当を出して欲しいです。(2年保護者、東京都)

子どもからは「もっと友達と遊びたい」「友達と出かけたい」という声があがった一方、遊べない理由については、子どもからは「**両親が働いているから友達と遊びにくい**」、保護者からは「**親同士が連絡を取れないと子どもを遊ばせにくい**」といった背景がうかがえた。

### 子どもの声

#### もっと友達と遊びたい

もう少し友達と遊びたい。(2年、京都府)

友達と遊ぶ時間が作れたらいいと思う。(1年、長野県)

家で自由に過ごしたり、友達を家に呼んで遊びたい。(6年、滋賀県)

本当はもっと友達と遊びたい。誘いづらい。(5年、神奈川県)

#### 友達とお泊りしたい・出かけたい

友達の家でお泊り会したい。(5年、茨城県)

友達の家泊まりたい。(6年、千葉県)

友達といつもと違う場所に行ってみたい。(3年、北海道)

友達と遠くに遊びに行きたい。(2年、神奈川県)

### 遊べない理由

#### 【子ども】

・両親が働いているから、お友達を家に呼べる日は少ない。(4年、福岡県)

#### 【保護者】

・長期休みはまだ子供同士が連絡をとる携帯などを持っていないので約束ができず、友達と遊ぶことは親同士が仲良くないとできていない。(3年保護者、東京都)

・お友達と遊びたいと言われるが、親同士で連絡が取れないので何かあった時に心配になるのであまり遊びに行きたくない。(2年保護者、京都府)

子どもからは、「旅行に行きたい」「もっと外出したい」という声がある一方、保護者からは「**普段できない体験をさせたい**」が「**休みが取りづらい**」といった声が多い。

### 子ども

#### 旅行に行きたい

温泉やホテルとかもっと遠くにお出かけしたい。(5年、千葉県)

キャンプとかにもっと行きたいです。(3年、青森県)

もっとお金があれば、旅行とかに行きたい。(2年、福島県)

海外に行ってみたいです。(5年、山梨県)

旅行やテーマパークに行きたい。(6年、神奈川県)

#### 外に出掛けたい・体験したい

もっと外出してのびのびと動き回りたい。(1年、東京都)

暇。つまらない。普段行けない場所にもっと出掛けたい(5年、滋賀県)

普段できない活動がしたい。(2年、神奈川県)

普段行けない遠い所に遊びに行きたい。(2年、愛知県)

自然の中でアクティビティを体験したい。(2年、岡山県)

### 保護者

#### 親の休みが取りづらい

親の休みが取りづらいため何処かに連れて行きにくい。(3年保護者、京都府)

もう少し色々な場所へ連れて行きたいが、なかなか時間が取れない。(2年保護者、三重県)

仕事なのであまり遊びに連れていけない。(2年保護者、広島県)

親が仕事ばかりなのでなかなか経験に力を入れられない。親の休みも取りやすくしてほしい。(1年保護者、京都府)

#### いろいろな場所に連れて行ってあげたい

もっと色々な場所に行って色々な経験をさせてあげたい。(1年保護者、神奈川県)

キャンプや泊まりがけの体験など長期休暇中にしか出来ない体験をさせたい。(3年保護者、埼玉県)

色々な場所に連れて行って普段出来ない学びをさせてあげたい。(6年保護者、東京都)

無料イベントにたくさん連れて行きたい。(5年保護者、滋賀県)

## 子どもが安全で主体的に過ごせる居場所の選択肢が地域にある状態を、国・自治体・地域・民間団体が連携してつくる必要がある。

今回の調査から見えてきたこととして、1つ目は、**低所得層の子どもは長期休みに旅行や習い事だけでなく、友達と遊ぶ、祖父母・親戚の家で過ごす割合が他と比べて著しく少ない**ことです。

「放課後の過ごし方調査2025」においても同様の傾向がみられ、その理由としては、習い事が友達と遊ぶ機会にもなっていることや、友達と遊ぶには保護者同士で連絡が取れる必要があることなどが考えられます。ここから、**低所得層の子どもは特に長期休みに孤立しがちな状況にある**ことがうかがえます。

2つ目は、**所得に限らず多くの子どもや保護者が長期休みの過ごし方に不満や困りごとを抱えている**ことです。子どもからは「もっと遊びたい」「出かけたい」という声が多くあがったのに対し、サマースクールや旅行等のお出かけ、友達と遊んでいる割合は少なく、一方で、長い時間を自宅で過ごしている子どもが多いことが分かりました。

子どもたちが遊べない理由としては、「夏に屋内で遊べる場所が少ない」「親同士が連絡を取れないと遊べない」などの声があがりました。保護者からは、子どもに「色々な体験をさせてあげたい」という声が多くあがった一方で、「働いていてできない」「休みが取りづらくてできない」などの難しさもうかがえました。

また、「長期休みだけでも安心安全に預けられる場所がほしい」という保護者の声が多く、そうした環境が整っていない現状がうかがえます。自宅で過ごす割合が高学年で特に多い結果から、**高学年の居場所が不足している**状況もうかがえます。

こうした現状は、**各家庭の工夫だけでは解決できないことであり、社会全体で対策が必要**です。

子どもからは学童保育への不満の声も多くあがっていることから、まずは**学童保育が子どもにとって行きたい場になる**ことが重要です。

一方で、学童保育運営者も長期休みの運営は負担が大きく、現場にも課題があることを考慮したうえで、持続可能な仕組みづくりが求められており、こうした整備も社会全体で進めていく必要があります。

また、地域の多様な居場所の選択肢を増やし、**低所得家庭や高学年の子どもが孤立せず、地域の中で居場所を得られるような環境をつくる**ことも重要です。保護者が介在せずとも**子ども同士で安全に自由に遊ぶことのできる、やりたいことをして過ごせる居場所づくりを国・自治体・地域と民間団体が協力しながら一体的に進めていく**必要があります。

本調査をきっかけに、さらなる放課後や長期休みの実態把握と課題の特定が進み、より本質的な解決策につながっていくことを期待しています。

【平岩への取材・本件へのお問い合わせ先】  
放課後NPOアフタースクール 広報  
Email: [press@npoafterschool.org](mailto:press@npoafterschool.org)